対象年度	令和 7年度	総合計画実施計画策定及び行政評価シート
------	--------	----------------------------

事務事業名	地域未来塾運営事業					予算事業名	地域未来塾運営事業費				
予 算 科 目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令			
			10	05	03	22					

総合計画体系	未来を担う子どもと 生き生きとした市民を育む地域を目指そう 地域への愛着と誇り、「生きる力」を育む教育環境づくり 安心して学べる学校づくりの推進					事業の区分	主要事業				
						担当課係等	生涯学習課 生涯学習係				

事業期間 継続 (平成29年度～ 年度)

【めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)】 中学生の学習習慣の確立や基礎学力の向上を図るとともに、地域住民が学習支援を行うことにより、地域の教育力の向上と活性化を図る。	【事業開始のきっかけや他市の状況など】 子どもの貧困対策に関する大綱 (平成26年8月29日閣議決定) に地域による学習支援が示されたことがきっかけであるが、本市では貧困対策にとらわれず、全中学生を対象に開始した。
--	--

【手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)】 ・地域住民を学習支援員 (元教員、学習塾講師等) として協力を得ながら、市内中学校に通学する中学生を対象とした学習支援を行う。 ・市役所を会場とし、学習支援員を配置する。各教室の連絡調整役として地域コーディネーター1人を配置する。 ・運営委員会の設置。委員11人。年2回開催。事業計画、安全管理、広報、ボランティア等人材確保、事業の検証・評価を行う。	【対象 (だれに対して・何に対して行うのか)】 市内中学生
	【事業をとりまく環境の変化】 近年、子供を取り巻く環境が大きく変化しており、未来を担う子供たちが健やかに育つためには、学校・家庭及び地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で教育に取り組む体制づくりを目指す必要がある。

【令和 7年度 事業内容】	【令和 8年度 事業内容】	【令和 9年度 事業内容】
<ul style="list-style-type: none"> ・地域未来塾の開催 数学コースを授業形式により、中1、中2、中3を開設 英検対策コースを授業形式により、前期3・4級、後期4・5級を開設 ・運営委員会の開催 (年2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域未来塾の開催 数学コースを授業形式により、中1、中2、中3を開設 英検対策コースを授業形式により、前期3・4級、後期4・5級を開設 ・運営委員会の開催 (年2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域未来塾の開催 数学コースを授業形式により、中1、中2、中3を開設 英検対策コースを授業形式により、前期3・4級、後期4・5級を開設 ・運営委員会の開催 (年2回)

■事業費

		R05年度	R06年度			
財源内訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	309	576			
	地方債	0	0			
	その他	0	0			
	一般財源	230	410			
歳入計 (千円)		539	986			
歳出内訳	節 (番号 + 名称)	金額 (千円)	金額 (千円)			
	07 報償費	432	816			
	10 需用費	15	17			
	11 役員費	92	153			
歳出計 (千円) (A)		539	986			
伸び率 (%)			82.93			

備考 総合計画99ページ 予算書190ページ

令和 5年度行政評価シート

■指標

種類	指標名	単位		R05年度	R06年度	R07年度
活動 指標	開催回数	回	目標	70.00	70.00	70.00
	数学中1・中2・中3コース・英語コースの延べ開催数		実績	71.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	出席受講生数	人	目標	1,000.00	1,000.00	1,000.00
	数学中1・中2・中3コース・英語コースの延べ参加者数		実績	1,000.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	生徒が定期的に未来塾に参加することで、学習習慣の定着及び学力の向上につながる。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	民間と連携をとりながら実施している。
	手段の妥当性	A 妥当である	令和5年度から、英語コースを増設したが年間日数に変更はなく実施している。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	現在のコストは妥当といえる。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	応募が多く、定員を超えた場合は抽選となる。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	参加した生徒は、学習習慣が確率されるなどの成果が見られるが、運営委員会で反省点・改善点を検証し、さらなる成果向上を目指した活動を展開していく。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	学習支援員や事務局が、情報交換及び連携により計画的に進めることができている。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
参加した生徒は、熱心に学習に取り組んでおり、学習習慣の確立及び基礎学力の定着を図ることができている。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
数学コース、英語コースともに、好評である。学校教育課で英検受験補助があるため英検コースを強化していきたい。また、英語コースについては、小学生も対象として展開していきたい。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
方向性の具体的内容 受講者等にとっては好評であったが、今後は学力向上を客観的データをもって分析評価を行い、事業内容を改善しながら行っていく必要がある。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり